

探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：美土里中学校区

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
美土里小学校	8	92
美土里中学校	4	56

(R4.11.1現在で記入)

1 研究の概要

(1) 研究テーマ及び研究のねらい

クリエイティブに思考し、表現する児童生徒の育成
～自分や集団の考えを発展させる

「学び合い」の授業を通して～

(2) 資質・能力の設定について

育成したい資質・能力を論理的思考力・批判的思考力・楽観的思考力とした。

論理的思考力	批判的思考力	楽観的思考力
【小学校低学年】 自分の考えを理由をつけて、順序よく伝えている。	【小学校低学年】 伝え合うために必要な事柄を選んでいる。	【小学校低学年】 興味・関心をもち、挑戦しようとする。
【小学校中学年】 身の回りにある課題に気付き、理由や事例をもとに筋道立てて伝えている。	【小学校中学年】 比較・分類して伝え合う事柄を選んでいる。	【小学校中学年】 自分で決めたことに挑戦しようとする。
【小学校高学年・中学校1年生】 現状から原因を見つけ、自分の考えや思いを広げ、伝えている。	【小学校高学年・中学校1年生】 分類したり関係づけたりして伝え合う内容を検討している。	【小学校高学年・中学校1年生】 失敗をおそれず、積極的に学びを繰り返そうとする。
【中学校2・3年生】 課題に対して、明確な根拠をもって思考・発言している。	【中学校2・3年生】 集めた情報を適切に取捨選択している。	【中学校2・3年生】 成功までのプロセスをイメージし、まずはやってみようとして挑戦している。

(3) 取組について

【探究的な学習の充実に向けての取組】

未来チャレンジ探究学習を進める上で以下のことを特に意識して取り組んだ。

一人一探究・・・自分の「好き」を探究する

◆PBLのキーワード

- ・自分のためになること
- ・他人のためになること
- ・地域や社会のためになること

これらのキーワードを児童生徒に示し、テーマを設定した。

◆美土里中学校区 探究のイメージ

- ・小学校1・2年生～豊かな体験からたくさんの気付きをもつ。
- ・小学校3・4年生～豊かな体験をもとに問いをたて、自分なりの答えを出す。
- ・小学校5・6年生・中学校～すぐには答えの出ない問いへと問いの質を高めていく。

小学校での探究が中学校へとつながるようにしていく。

コーチング・・・児童生徒の思いや考え、願いを引き出す

児童生徒としっかり対話し、現状を把握しながら個々の思いや考え、願いを引き出していく。授業の中では児童生徒同士が考えを出し合う、アドバイスし合うなどコーチングも行う。

多様な方法での情報収集・・・「やってみた」を推奨する

情報収集の方法として、本やインターネットで調べるだけでなく、実験、現地視察、アンケート、専門家へのインタビューなど、実際に行動することを推奨する。

2 実践事例

◆一人一探究 学習の流れ

- ①PBLってなんだろう (ガイダンス等) …1時間
- ②探究するテーマを決めよう…3時間
- ③問いを立てよう…3時間
- ④仮説を立てよう…2時間
- ⑤情報を収集しよう&やってみた! …5時間+夏休み
- ⑥収集した情報を整理分析しよう…5時間
- ⑦仮説交流会で発表しよう…2時間 (中間発表会)
- ⑧仮説を見直そう…1時間
- ⑨発表スライドを作成しよう…6時間
- ⑩発表しよう…1時間
- ⑪自分たちの発表を振り返ろう…1時間

◆指導のポイント①

単元全体の中で特に探究のテーマを設定するところで、コーチングが発揮できるようにした。ウエビングをもとに対話し、児童生徒の中にある思いや考え、願いを引き出せるようにした。

なんでそれをやりたいと思ったの?

こんなことをやってみてはどうか?



総合的学習 6年

【ウエビングとコーチングの結果児童が決めた問い】
「どうしたら、はだあれやアレルギーが楽になるか?」

小学校 <第6学年> 【実際に出てきた問い】

【実際に出てきた問い】 6年生編

- ・手荒れが楽になる方法は?
- ・どうやったらシュート率が上がるのか?
- ・アレルギーがある人も食べられるおいしいスイーツを作るには?
- ・看護師になるには、どうしたらいいのか?
- ・聞こえた後の音はどこへ行くのか?
- ・ポケモンショックとは何か?

中学校 <第1学年～第3学年> 【実際に出てきた問い】

【実際に出てきた問い】 中学生編

- ・安芸高田市の人口を増やすには?
- ・美土里町の川の魚はおいしいのだろうか?
- ・ピッチャーの球速を上げるには?
- ・昼寝は学習効率を上げるのか?
- ・中学生にとって覚えやすい言語は?
- ・生態系を守るにはどうしたらいい?

◆指導のポイント②

「学び合い」を生かしたコーチング
児童生徒同士のコーチングの場を設定し、お互いのよさを伝え合ったり質問をし合ったりした。



[テーマの設定の場面]
どうしてそのテーマにしたのかを伝え、お互いに質問し合う。



[まとめの場面]
集めた情報をどのようにスライドにまとめていけばよいかアドバイスし合う。

◆指導のポイント③

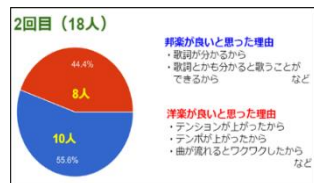
情報収集において大切なことは、インターネットの一部のサイトの情報をうのみにするのではなく、本で調べたり、実験したりインタビューをしたりするなど複数の情報で説得力をもたせることを意識させた。その結果児童生徒の全員がインターネットで調べ7割程度が下の①～④のうちいずれかを実施した。



①本やインターネットで調べる



②実験を友達にもやってもらう



③アンケートの実施



④専門家へのインタビュー

【個に応じた指導の充実】

◆進捗管理シートの活用

コーチングを行う上で、進捗確認を丁寧に行うことも意識した。担当者を明確にし、相談のつたり、課題解決の考え方や方法の選択肢を示したり、一緒に実験をしたりするなどして進捗管理を行った。全生徒の進捗をエクセルシートに入力し、誰もが指導できる体制を整えた。

名前	外部連携	日時 活動 内容	6月13日(月) 活動計画立案	6月16日(木) 活動計画面談	6月17日(金) 活動①
A	・市役所 ・駅前屋 ・国土交通省 ・なかもと動物病院		計画は立てられており、本人の中で活動計画も立てられている。活動に入れる状態。	取材先を検討する必要がある。	ネットで熊の目撃情報を地図で確認し、野生動物出没しやすい場所を美土里町で確認した。
B	・スポーツトレーナー (元カープのトレーナー)		計画は立てられているが流れが不十分。次時には詳細を面談で詰める。	大谷選手の体格と日本人プロ野球選手の平均、メジャー選手の平均を出し、それをスポーツトレーナーに取材して結論を得ることを確認した。	NPBとメジャー選手の平均の体格の数値を調べ、今後の比較の方法も考えた。
C	・安芸高田支所 ・美土里漁協		計画は立てられているが、目的と観測が不十分。次時には、詳細を面談で詰める。	計画は本人が具体的にイメージしているが、実験方法が曖昧である。次時には、詳細を面談で詰める。	動画で様々な生物を捕まえる鳥の作成方法を調べ、ペットボトルを利用する方法を学び、作成の計画を立てた。
D	・安芸高田支所 ・ウナギ捕り名人 ・美土里漁協		計画は立て、課題もはっきりしているが、実験方法が曖昧である。次時には、詳細を面談で詰める。	ウナギの捕り方と餌の作り方を調査し、材料を準備することを確認した。	ウナギの餌を調べたが比較的高額であるため、ペットボトルを利用した餌の作成方法を調べた。

3 研究の成果と課題等

資質・能力アンケートを行った結果より、次のような成果と課題が考えられる。

- ・小学校では、R3年度と比較した結果次のとおりとなった。
 - 【主体性に関する質問】 83%(R3)→88%(R4)
 - 【学び合いに関する質問】 82%(R3)→97%(R4)
 - 【批判的思考力に関する質問】
 - ①比較したり分類したりして伝え合う事柄を選んでいる…86%(R3)→88%(R4)
 - 【自己肯定感に関する質問】
 - ①自分には良いところがある…87%(R3)→86%(R4)
 - ②友達の良いところを見つけることができる…89%(R3)→94%(R4)
 - ③自分の良さは周りの人から認められていると思う…76%(R3)→87%(R4)

- ・中学校では、R3年度と比較した結果次のとおりとなった。
 - 【論理的思考力に関する質問】
 - ①仮説から結論まで筋道を立てて考えた…87%(R3)→89%(R4)
 - ②探究したいことについて比較したり関連付けたりして、理由や根拠を明らかにした。…87%(R3)→100%(R4)
 - 【批判的思考力に関する質問】
 - ①いくつかの情報源から情報を収集し、必要に応じて取捨選択したり整理・分類したりした。…85%(R3)→96%(R4)
 - ②物事をうのみにせず、目的や根拠を明確にし判断した。…89%(R3)→94%(R4)
 - 【採掘的思考力に関する質問】
 - ①情報(収集したものも含む)をもとに、見通しをもって恐れずに探究的な学習を進めた。…95%(R3)→98%(R4)

(1) 成果

- ・小学校では、11項目中9項目が上昇した。授業の中で「学び合い」を生かし、分からないことを教え合ったり、個々のテーマの違いやよさに気付いたりすることができた。他者と対話することで、「次はこうしよう」と考えたり、協働的に情報を収集したりしながら自分の決めた課題を最後までやり切る力がついてきた。
- ・中学校では、実験・アンケート・専門家へのインタビューを行ったことが、全体的な数値の上昇につながったと考える。

(2) 課題

- ・小学校では、体験をもとに課題を設定し、自分の興味・関心のあることを探究した。だが、今年度初めて「一人一探究」を行い、進め方に戸惑ったり、問いを立てることなどに難しさを感じたりしたことから主体性の項目が88%にとどまったと考える。
- ・中学校では、「探究的な学習のやり方を他の教科等の学習や生活に役立てている。」の項目が64%から72%と上昇しているものの、全質問項目の中で最も低い数値となった。

(3) 今後の改善方策等

- ・探究の流れや具体的な進め方について、今年度の取組をもとに来年年度も「一人一探究」に取り組む。その際、児童生徒の思考に沿って探究が進められるよう、更にコーチングの力を発揮できるようにする。
- ・多様な方法で情報を収集することを体験し、良さを感じることはできた。しかし、小学校では、収集した情報の中から必要なものを取捨選択したり比較・分類したりすることはまだ十分ではない。批判的思考について学び、実践生かしていけるようにする。
- ・各教科等とPBLとの関連を意識したり、PBLで学んだ学び方をつかたりして、各教科の授業づくりにも取り入れる。